

上水道産業における水利権と費用効率性

佐藤 英司*

2011年1月

概要

この研究は、硬直的な水利権によって定められた事業構造が費用効率的となっているのか検証した。日本の水利権は譲渡・売買ができず使用分のみ許可されるため、各事業者は費用効率性の観点ではなく未使用水利権がないよう事業構造を定めている。そこで確率的フロンティア費用関数を推定し、推計された技術非効率性の要因分析を行った。その結果、技術非効率性は事業規模に対して下に凸の関係が示された。また費用効率的な受水量と比べると、現状の受水量は政令指定都市では多く町村では少ない。さらに最適な事業構造と比較した場合、平均で26.6%ほど費用が増加していることがわかった。

*一橋大学大学院経済学研究科博士課程。Address: 〒186-8601 東京都国立市中 2-1 マーキュリータワー 307. E-mail: ed072002@g.hit-u.ac.jp. TEL: 042-580-7767.